

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和2年11月11日

事業所名 すまいる・キッズ

職員数 5

回収数 5

回答率 100%

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			
	②	職員の配置数は適切である	5		・加配配置あり	東京都の指定基準以上の職員配置がされている。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4		・利用者にできるだけ危険が伴わないよう環境を変えたり視覚的に目に入らないようにするよう工夫している ・カーテン、カバー等の活用 ・視覚カード、日課表の活用 ・荷物や座席等、生活位置の固定化 ・日課の大きな流れの固定化と繰り返し	活動内容に集中しやすい環境作りや、お子さんによっては視覚ツールも使用している。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		・コロナ感染拡大により今まで以上に消毒を徹底している ・できる限りコロナ対策を行っている	職員の健康管理とともに、室内、玩具等の使用前、使用後の消毒を徹底し、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めている。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4			グループ療育後の毎回の振り返りとともに、職員ミーティングには多職種の職員が参加することで、多角的な視点で療育内容の見直しや計画ができるようにしている。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4			
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2	・評議員の配置あり ・練馬区の監査受け入れ及び業務改善	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		・外部の教授の研修の機会がありました ・計画的に外部研修に参加している。研修受講後は職員間で情報共有をしている。	計画的な内部、外部研修、ケース検討、教具についての研修の機会を持つようになっている。 外部研修受講後には研修報告の場を設け、情報共有をしている。

適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		・個別支援計画は担当者はもちろんその対象児にかかわるすべての職員の多方面からの意見もおり込んでいる	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	2	・個人個人の特性や発達段階をより重視するようにしているため標準化されてはいない ・一部実施。ツールの種と活用法について検討中 ・外部発達検査を受けた場合、同意のもと結果をコピー、使用している ・必要に応じOTによる感覚チェックと評価及び特別支援を行っている	作業療法士による【感覚に関するチェック】を、順次導入中。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	1		
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5		・職員が常に手に取り目を通せるようになっている	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	5			
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		・現段階の発達やその子どもに合った玩具の設定を都度考えながら行っている	お子さんの状況に合わせ、柔軟なプログラムの変更を心掛けている。 合わせて、季節の制作および活動（年間6回）を行っている。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	5		・子どもの力がより良い方向に発揮できるよう見極め保護者と相談の上年度初めに個別か集団かを分けている ・就園児については希望の形態をお聞きしその上で立案している	未就園児グループについては、お子さんの状況を踏まえ、集団活動の中に個別活動を組み合わせている。 就園児については、お子さんの状況、保護者の方の希望をうかがい、相談の上、個別療育、小集団療育を選んでいただいている。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		・職員全員が共通認識のもと支援を行うように心掛けている	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		・振り返りで出た反省点や課題は次に生かせるようにしている	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			
⑳	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5				

関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	1	・会議は行われていない。モニタリングとして半年に一度書面にて伝達報告 ・サービス担当者会議に該当する児童、ケースなし	サービス担当者会議に該当するケースなし。 相談支援事業所とは、6か月毎のモニタリングにて状況の共有及び報告を行っている。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4		・担当保健師や幼稚園、保育園との情報連携 ・小学校への就学支援シートの記入	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1		・該当児なし	該当児なし。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			・現在はそういった利用者がいない ・該当児なし	該当児なし。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		・必要があれば保育園や幼稚園に出向き、園での状況を把握した上でより子どもの実態に即した支援となるようにしている ・保護者の意向による	幼稚園や保護者からの希望により、文書または口頭での情報共有を行っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		・保護者の意向による ・就学支援シートを活用している	年長児保護者に対して、就学支援シートの活用を周知している。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	1	・練馬区社協の研修センターを通じて受けている ・こども発達支援センター講師による外部研修に参加している	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	3	・今年度はコロナ感染防止のため休んでいるが、昨年度はそういった機会を設けていた ・今年度はコロナ感染を鑑みて保育所の地域交流は推奨していない ・法人内保育園の地域交流事業に参加予定だったがコロナ感染拡大防止のため現在中止している	今年度は新型コロナ感染拡大防止のため中止としたが、昨年度は法人内石神井町つつじ保育園の地域交流事業(園庭開放)に未就園児グループの親子と共に参加。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		4		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		4	・プログラムと題して行うことはないが、細やかな面談や相談のつたり、時には保護者参加型の療育も行っている	フィードバックや定期的面談以外にも、保護者、事業所相互の希望により、積極的に面談の機会を持つようになっている。その中で、保護者の方の悩みや不安をお聞きしたり、解決のための具体的方法を一緒に考えたり助言させていただいている。

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	2	・今年度は保護者会及び交流会の開催を中止	昨年度は、保護者会（未就園児グループ3回/年、就園児グループ2回/年）、交流会（就園児2日/年）を実施。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在まで中止している。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	1	・災害関連はその都度おたよりにて発信している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			
非常	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4		例年、同法人の他事業所にて実施。（今年度は中止。）
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5		・今年度中に完成予定で進められている。完成を待たずできることから対応している	大規模災害を想定した【災害時伝言ダイヤル・Twitter体験利用について】のお知らせを配布。（4回/年）【大規模災害対応計画】と防災用品（備蓄品含む）の準備完了。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこのものの状況を確認している	3	1	母子分離クラスではチェック項目に入れる必要がある	

時 等 の 対 応	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・食事提供なし ・食物を扱う活動の場合は保護者に確認している ・アレルギーに関しては保護者からの情報を得ている 	サービス提供の内容に食事は含まず。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		<ul style="list-style-type: none"> ・ファイルを共有しその日の振り返りを通じて話す機会がある 	ヒヤリハット、事故報告書を作成し、事故防止のための情報共有を行っている。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な研修を実施 ・通報先等は掲示 	内部研修（2回/年）、外部研修、虐待防止チェックリストの活用及び分析を行っている。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	2		<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束は行わない 	該当児なし。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

○回答数に満たない項目には無記入が含まれます